

井萩町土地区画整理碑



〔登録年月日〕平成一三年二月二七日
〔種別〕有形文化財（古文書）
〔名称〕井萩町土地区画整理碑
〔点数〕一基
〔所有者等〕井草八幡宮
〔所在地等〕善福寺一―三三―一

井荻町土地区画整理碑

井草八幡宮東参道北側の林地内にあるこの石碑は、昭和五年（一九四〇）五月一日に井荻町土地区画整理組合によって建てられたものである。碑の正面には区画整理事業の経過を、裏面には整理組合の役員一三二名の名を刻んでいる。

形状は自然石板型で、高さ六一七・五cmの棹石（粘板岩）と高さ約一〇〇cmの台石（花崗岩）からなるこの碑は、区内の記念碑としては最大である。

井荻地区の土地区画整理事業は井荻村全域を区画整理の対象としたもので、当時の井荻村長だった内田秀五郎らによって計画された。大正一四年（一九二五）には内田を組合長として井荻村土地区画整理組合（後には井荻町）を設立し、一〇年後の昭和一〇年（一九三五）三月に区画整理事業を完了させた。この区画整理の総面積は八八八町歩（約八七九ha）で、単一町村独自で行った事業としては、全国屈指の大規模なもので、街づくりとしてもすぐれたものであった。

本碑は、総高七・二mと杉並区最大の記念碑であると同時に、近郊農村であった井荻地区が都内でも有数の郊外住宅地として発展する基礎をつくった区画整理事業の完成を伝える石碑として重要である。

【文化財所在地】

